

第4章 重点事業の実績と評価

重点事業の評価基準について

第4章においては、新たに設定する重点事業の令和6年度目標に対する進捗を年度ごとに確認し、下記の評価基準に当てはめて評価する。

「事業の進捗状況」及び「質の向上」の2点に対して評価する。

<進捗状況に対する評価>

- A 評価 … 令和6年度目標を達成している
 B 評価 … 令和6年度目標は未達成だが、推進が認められる
 C 評価 … 令和6年度目標に対して推進が認められない

<質の向上に対する評価>

- A 評価 … 向上できた
 B 評価 … 現状維持
 C 評価 … 向上できなかった

No.	事業名	担当課	事業内容	指標	令和6年度 目標	令和5年度の取組・課題と対応策	進捗評価	質の向上
基 1-1 No.9	子育て支援センター・ 子育て世代包括支援 センター	こども家庭・ 保健センター (こども家庭 総合支援担 当)	こども家庭総合支援室、子 育てセンター、ファミリー・ サポート・センターや子育て 世代包括支援センターが、 子育て支援の拠点として他 機関との連携によるネット ワークでの総合的な子育て 支援を行う。	こども家庭総合支援室、 子育てセンター、ファミ リ・サポート・センター 及び子育て世代包括支 援センターにおける他機 関との連携を強化	充実	子育てセンターでは、コロナ禍により孤独、孤立感を持ちつつある親子に対し て、事業を通じて声掛けや相談などを実施し、必要があれば子育て世代包括支 援センターの保健師やこども家庭総合支援室の支援員につなぎ、こどもを遊ば せながら面談などを実施した。相談後も事業に参加されるなかで継続して見 守りを実施することが出来た。 こども家庭総合支援担当では、定期的に学校・園でのこどもの状況を担当教諭 から聴き取りを実施した。 さらに相談・支援体制を強化し対応の充実を図るため、全ての妊産婦、子育て 世帯、こどもへ一体的に相談支援を行う機能を有する総合的な支援拠点とし て「こども家庭・保健センター」を令和5年4月設置した。	A	A
基 2-1 No.5	幼稚園教諭、保育士 の人材育成と資質の 向上	ほいく課	幼稚園教諭、保育士、保育 教諭等としての資質や指導 力の向上のため、研修、実 習等を通じた人材育成の充 実を図る。	研修会への参加人数	450人	取組： 【こども園・保育所・ほいく課実施分】 ・ほいく課主催研修11回 (市立私立認定こども園、保育所職員、ほいく課職員延べ232名) ・こども園・保育所主催研修 22回 (市立私立認定こども園、保育所職員、ほいく課職員延べ503名) ・保育士等キャリアアップ研修 5回 (私立保育園職員、ほいく課職員延べ153名) 実施状況：新型コロナウイルス感染症が5類相当に移行し、幅広い内容で企画、 開催し、参加人数を増加させたことで、質の向上につながった。 課題：感染症が流行する時期の開催において急遽対応が必要になることが あった。 対応策：その都度対策を講じながら開催できるようにする。	A	A
		保健安全・ 特別支援教 育課			450人	芦屋市立幼稚園5園が公開保育を伴う研究会を実施した。また、特別支援教育 研究会並びに報告会や幼稚園教育研究会でも、就学前教育・保育施設の保育 者が共に学ぶ機会となった。就学前研修会では、実技や講話など、幅広い分野 の研修会を開催した。保健安全特別支援教育課主催の研究会、研修会におい て、市内の幼稚園教諭、保育教諭、保育士が共に学んだ人数は、延べ273人であ った。昨年度の参加者数と比較してほぼ変化はなかった。今後も、共に学ぶ 場を大切にし、指導力向上、人材育成の充実にも努める。	B	B

No.	事業名	担当課	事業内容	指標	令和6年度 目標	令和5年度の実績・課題と対応策	進捗評価	質の向上
基 2-1 No.6	教育・保育施設への 巡回訪問及び保育の 質の評価	ほいく課	市職員が定期的に各施設を 訪問し、保育内容や環境等 について意見交換・助言等 を行う。また、「芦屋市 保育 の質の評価」のチェックシ ートを活用し、保育の質の向 上を目指す。	各施設への年2、3回の 定期的な巡回の実施	充実	取組： 【認定こども園・保育所等について】 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止の対策を講じながら、25施設を延べ56 回訪問した。（当初予定回数：56回 訪問率100%） ・不適切保育や食育について確認し合い、今後の対策等を話し合った。各施設 ごとに研修や保育の振り返りを行う等の機会を取り入れていく。 【芦屋市保育の自己評価の活用と評価】 ・市立私立認定こども園・保育所等が自己・施設としての評価を行っていること を次年度5月にホームページで公開する。また各施設に年2～3回定期的に巡 回訪問を行い、保育について相談や助言等をなした。 課題：感染症の流行期には訪問ができないこともあった。 対応策：感染防止対策を講じながら、園と日程調整等を行いながら実施してい く。	A	A
基 3-1 No.1	地域における子育て 支援活動	市民参画・ 協働推進課	あしや市民活動センターや 幼稚園、保育所、認定こども 園等の公共施設を利用し、 子育ての情報交換・団体間 交流・ネットワーク化を図 り、地域における子育て支 援活動の充実を図る。	子どもの育成にも効果 的な活動を行う市民活 動団体への支援及びあ しや市民活動センターに おける事業の実施	充実	あしや市民活動センターは、市民活動を支える中間支援組織である。子どもの 支援活動団体には活動の場、子どもには市民活動を楽しむ体験する場、そして それぞれをつなぐ場を下記の取り組みを通して提供することができた。また、 学生が事業運営側に参加するなど、学生との協働を進めることができた。 学生が実行委員会として企画段階から関わっているため、学生のモチベーショ ンをいかに保ち続けることができるかが課題である。一方で、見守りも必要だ と考える。今後も状況に応じて、見守りとサポートをバランスよく行なってい きたい。 ・「夏休み！わくわくスペシャル」（小中学生95人参加） 子どもの居場所づくり、団体の活動の場というコンセプトで開催した。 ・「芦屋発 君も今日から新聞記者」（高校生7人参加） 神戸新聞社の協力を得て、市内の高校生が参加している講座。令和5年度は、 市内で活動されている方を取材し、冊子を作成、市内に配布した。 ・「あしや部（芦屋市在住高校生の交流の場）」（6回84人参加） ふれあいカフェなどあしや部の活動場所を提供した。 ・ママと子どもの居場所「つきいちよるごはん」（6回子ども52人参加） 子ども（年長児から小学校低学年）とママの癒しと交流の場。 ・「芦屋さくらまつり清掃ボランティア実行委員会」 芦屋大学ボランティア部aquaを中心に構成され、中学生から市民の方まで 85人のボランティアが参加した。 ・「灯籠まつり」（当日参加者180人） 中高生（潮見中学校、国際高校）6人で実行委員会を立ち上げ、左官職人と 1.17を偲ぶ会を開催した。 ・スマイルボランティア（小学生13人参加） ふれあいカフェなどリードあしやのイベントでボランティア活動を行った。	A	A

No.	事業名	担当課	事業内容	指標	令和6年度 目標	令和5年度の取組・課題と対応策	進捗評価	質の向上
		ほいく課				【認定こども園・保育所】 園庭開放実施回数：55回 実施状況：新型コロナウイルス感染症が5類相当に移行し、10月23日より園庭開放を再開した。 課題：育児相談等を行い、子育て支援を充実させ実施していく。	A	A
		保健安全・特別支援教育課		幼稚園、保育所、認定こども園での子育て世帯への施設開放の実施	充実	【幼稚園】 子育て支援として、3歳児親子ひろばでは、親子で楽しめるプログラムを工夫し市内5園で年間延べ191回、837組の親子が利用をした。昨年度より実施回数は、10回増加したが、参加組数がほぼ変化なかった。また、園庭開放では、在園児が5園で延べ412回7062組が、未就園児は、延べ185回875組が利用した。また未就園児との交流会も61回283組が参加した。園庭開放や未就園児との交流会も、昨年度の参加組数と比較してほぼ変化がなかった。地域の子どもたちが園庭で安心して遊べたり、気軽に子育ての相談をしたりする場となり、親同士が仲良くなり子育ての情報交換ができる場となった。今後も園庭開放等の更なる充実を図っていく。	B	B
基 3-1 No.1	地域における子育て支援活動	こども家庭・保健センター（こども家庭総合支援担当）	あしや市民活動センターや幼稚園、保育所、認定こども園等の公共施設を利用し、子育ての情報交換・団体間交流・ネットワーク化を図り、地域における子育て支援活動の充実を図る。	地域での子育てセンター事業の実施	充実	子育てセンター事業においては、コロナ禍により縮小・中止していた事業を、感染防止対策を講じながら、開催時間・定員等を徐々に増やした。オンライン事業は、自宅での参加のしやすさもあるため食事に関すること等こども家庭・保健センター栄養士と共催のプログラムを継続して実施した。 今後も事業の内容や実施の仕方などについて、従前同様ではなく新たな形態で実施することも含め、こどもや保護者が楽しめる事業を実施していけるよう努める。 子育てセンターでは、子育て支援（つどいのひろば、カンガルークラブ、あそぼう会、なかよしひろば、自主活動グループ）などを実施し、各ひろば等で子育て相談に対応している。	B	B
基 3-2 No.4	交通安全の意識向上	道路・公園課（交通安全）	子どもの交通安全を確保するため、「交通安全教室」や「出前講座」等の実施により、交通安全に対する意識向上を図る。	参加・体験・実践型の交通安全教育の推進	充実	交通安全教室を市立・私立幼稚園、認定こども園、保育所等39回、小学校16回、中学校4回、特別支援学校2回、計61回開催した。 新型コロナウイルス感染症の流行も収束し、従来どおりの交通安全教室をすることができた。 課題としては、新型コロナウイルス感染症の流行下で対応を始めた本校実施を希望する学校もあり、指導員や警察官が直接指導する機会がなくなった学校があった。また、小学校3～4年生対象の自転車教室は、ワークシートを希望する学校が多くなり、実技指導をする機会が減った。児童生徒にとってより良い安全教室を提供できるよう、教育委員会と協力して学校園に働きかけていく。	B	B

No.	事業名	担当課	事業内容	指標	令和6年度 目標	令和5年度の取組・課題と対応策	進捗評価	質の向上
基 3-4 No.2	インクルーシブ教育・ 保育	ほいく課	就学前施設において、配慮 の必要な子どもに対して必 要な支援体制を整備し、集 団生活を行うことにより、 当該子どもの健全な発達を 促進する。	対象児童の個別支援計 画の作成と内容の充実	充実	【市立・私立認定こども園・保育所等】 対象児童：65人 インクルーシブ教育・保育研修会：4回 実施状況：個別的な支援が必要な児童に対し、各施設が支援計画シートを年2 回作成している。支援計画についての評価や具体的な支援について相談や助 言を行った。研修会については、感染症の流行等の対策を講じながら4回開催 した。研修会では、講師の助言を受けながらグループワークを中心に子どもの 姿を読み取ったり、支援の方法について検討を行った。 課題：対象児の個別計画シートの作成の際に記入方法がわかりにくく実効性に 乏しいため、今後より実効性のある書式になるよう、検討を行う。	A	A
		保健安全・ 特別支援教 育課				【市立幼稚園】 支援が必要な子どもについては、特別支援センター専門指導員による巡回指 導による支援を行った。また、必要に応じて医師等の専門職からの助言を受 け、情報共有や保護者と連携を図りながら個別の目標や支援の方向性を明確 にし、個別の支援内容の充実を図った。今後も集団の中で生活することを通し て発達を促しながら、地域の中で安心して生活できる土台づくりを目指してい く。職員研修においては、幼・小・中を通して、どのような力をつけていくのか、 その為には、どの時期にどのような支援が必要かといった長期的な視点で 個々の幼児の教育的支援が行えるように努めていく。	B	B